

大切な平和

渡慶次小学校

六年二組

久場

梨穂

私達が今住んでいる沖縄は昔とても激しい戦争がありました。

その戦争のあとは今でも残っています。チビチリがマでは多くの人が亡くなりました。楽しい毎日を通すはずだった。ありがたうと言う毎日を通すはずだった。そんなかけがえのない毎日をうばったのが、戦争です。

まだ、小さい子供。まだ、しゃべれない赤ちゃん。優しい笑顔をするおばあちゃん。おじいちゃん。

戦争は、未来をうばいました。思い出をうばいました。笑顔もうばいました。尊い命をうばいました。

戦争にまきこまれた人達は、痛がった。うな。苦しかった。ただうな。と伝えきれない感情がでてきました。

67年前でも、形や物、写真、入々のバにき

さまやっています。

今も心の傷がなくならない人がいます。

足が痛いのは、死体をふんだから。という

テレビで言っていた言葉が忘れられません。

戦争がなければ、孫や自分の子供に おは

あふほぬえ。とかお母さんはぬえ。とか、自

分が体験した話や、思い出話、色々な話がで

きたのに。

家族との絆も深まったはずなのに。家族と

楽しい時間を過ごすはずだったのに。

未来をうばいました。人々は、未来をうば

われた事によって、希望を、勇気を、光を無

くしました。

その傷を負った人々の心に希望、勇気、光

をもどすのは簡単な事ではありませんでした。

長い月日と周りの人の思いやりが必要でした。

戦争が終わった今でも、どこかで戦争はお

きています。

1秒ずつ1人が鉄っぼうにうたれて死んで

いるかもしれない。

だからこそ、私達にある一つしかない尊い命を大切にしたいといけません。そんな、尊い命を簡単にうばうのが戦争です。

そんな「戦争」という名前の物は必要ありません。

一人に一つしかない尊い命を大切にすることでは幸せというゴールにとう着すると私は思います。